

複合系計画論

藤垣裕子

教科書： A 藤垣裕子著、「専門知と公共性」、東京大学出版会、2003年

準教科書：B 藤垣裕子編、「科学技術社会論の技法」、東京大学出版会、2005年

参考書： C 藤垣裕子、廣野喜幸編、「科学コミュニケーション論」、東京大学出版会、2008年

第1回 ガイダンス、講義の概略、成績判定とレポート 教科書等との対応 発表準備
講義1：現代社会と科学技術の諸問題 テーマ提出用紙配布

第2回 講義2：タコツボ化のメカニズム（専門主義の源泉）A1～3章

第3回 講義3：科学と社会が出会うとき
（科学的合理性と社会的合理性） A4, 5章

第4回 講義4：知識政治学（公共空間論、専門家と市民、
フレーミング、社会構成主義、状況依存性）A4, 6, 7章 グルーピングの発表

第5回 講義5：「参加」のしくみ（民主主義と科学） A8, 9章 グループ討論

休講：広域科学科栃木実習

第6回 講義6：責任境界 A10章 グループ討論

第7回 講義7：事例分析の例 B グループ討論

第8回 講義8：科学コミュニケーション論 C グループ討論

第9回 発表会1

第10回 発表会2

第11回 発表会3

単位の認定 = ミニ発表 + レポート

< レポート課題 >

科学技術と社会との接点で発生している問題の1つの事例を選び、授業で扱ったコンセプト(例: 科学的合理性と社会的合理性、妥当性境界、状況依存性、変数結節など)を用いて、分析せよ。

論述の根拠として用いた資料、文献、記事、記録などは引用、参照の形でまず文中に示し、(例: 米本、1999、あるいは朝日新聞 月X日朝刊、2000、など)レポートの最後に必ず参考文献のリストを添付のこと。

分量: A4で5枚以上

< 事例分析の手順 >

0. テーマを選ぶ(公共空間のなかで科学技術をめぐっておこなわれている争点を1つ選択)

. 事実を記述してみよう。

年表、統計等を用いて、事例のこれまでの状況を説明してみる。事実の出典を明記。

年表を作ってみよう。*

利害関係者を書き出してみよう。

. 論点を可視化してみよう。

各利害関係者の主張の違いをまとめてみよう。(講義2)

3 - 1) 専門家の主張をまとめてみよう(専門誌ではどのように扱われているか)

専門家内の主張のずれをみてみよう(合意があるか。合意がまだないのか)

3 - 2) 専門家の主張と社会の側(裁判所、世論、地域住民)の主張の違いをまとめる

(科学的合理性と社会的合理性のずれはどこにあるか)

論点を可視化してみよう。(講義3)

. 問題自体を構成しなおしてみよう。

国際比較、別の事例との比較、別の時代との比較等によって相対化

問題のフレーミングを疑ってみよう。既存の枠組みを疑ってみよう。(講義4)

この問題の意思決定のしくみについて提言できることは何か(講義5と対応)

今後の責任境界についての考察(講義6と対応)

使うべき資料: 政策文書、地方公共団体の文書、国際交渉の記録、市民運動の活動記録、web ページ、新聞記事、書籍など